

2022年(R4年)



No. 368

# ひとはつうしん



社会福祉法人 ひとは福祉会  
〒739-1203  
広島県安芸高田市向原町長田1857番地  
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

文尚さんが亡くなられてあ。という間に2か月が経ちました。きつつき共同作業所の安部理事長さんがお通夜の際「城崎くん、こんな時でも日常のように時間は流れるんだね」としみじみと話されていたことが思い出されます。

21年前、福祉の「ふ」の字も知らぬまま、ひとはに入職した私を「おお、えええ、今の声掛けは。お前は良い支援者になるかもしれんのか」といつも温かく見守りながら育てて下さいました。

わからない事、悩み事等も相談に乗って下さり、亡くなる前日も「お前の助けになるならやりませう」と優しい言葉をかけて下さいました。

今私たちにできること、それは「ひとは」の理念でもある「誰でもが共に暮らせる社会」を目指し続け、ひとはが大切にしている『人権』をより一層大切にしたい。よりよくするために取り組むこと。「ひとはは文尚さんがいなくなったら『ひとはらいさ』がなくなった」と言われたいように。

文尚さん、見ていて下さいね、ひとはのあったかさは私たちがこれからも引き継いでいきます。(就労センターあっぷ 城崎高治)

## 就任の報告

寺尾文尚理事長の逝去に伴い、後任の理事長に就任しました佐竹正充です。力量不足は承知しておりますが、皆様方のお力添えをいただき、引き続きひとは作りを進めてまいります。宜しくお願い申し上げます。

## 続・文尚さんへ届けたい

「15歳のころにぶんしょうさんに出会っていろいろとおしえてもらったことがいい思い出になりました。ぶんしょうさんのおかげでかぞくみんなともしあわせになりました。」  
さら 安作 奈美子

「3年間、にのしま学園でお世話になりました。あっぷでひるごはんと一緒に食べられるとおもってました。」  
さら 上里 千星

「自信をもて」  
もう聞けない  
さみしさを  
(スタッフ 岡田智美)

**新人紹介**

<p><b>宮崎 奈津希</b> 所属: ひとは工房 ささき亭 生まれ変わるなら? ドラえもんになつてみんなの夢を叶えたいです。(個人自営には)</p>	<p><b>大杉 正信</b> マイクロバス運転 生まれ変わるなら? 絵がすごく上手で、その絵を見た人を幸せにできる人</p>
<p><b>谷 慧云</b> 所属: 食事部 生まれ変わるなら? のんびり猫</p>	<p><b>埜 西花</b> 所属: くらむぼん 生まれ変わるなら? 歌手です。歌手になって嵐に会いたいです。</p>

障がい者支援だけでなく、人生の様々な悩みを聞いてくださっていたのに、指針を示してくれる人がいなくなり、どのように歩めばよいか心許なく思っております。ただ立ち止まることもできないので、これまで話されていたことを思い出したり、著書を読んだりしながら歩むしかないと考えています。これまで本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。(スタッフ 原田圭介)

★ 2月号も文尚さんへ届けたいことを掲載します。

# 「黄門さん！」

ひ

おしゃべり好きなきららが集まる作業所のグループ「たいよう」に、4月から黒瀬さんが加わり、一日中にきやかな会話と笑いが絶えない。「コロナ無くなれ!」「ハワイ行きたい」「東京行きたい」「USJもええよ」「飛行機乗りたい」

ある日「学校の時に「黄門さん」のところにいったんよ。」と黒瀬さん。黄門さん? → 京都の映画村のことらしい。「黄門さん」とは! うまいこと言うなあ。いかにも彼女らしい。そんな会話を傍らで静かに聴いているきららも、時にはつられてニヤリ。これからもグループの名前通り、共に明るく笑い合う仲間でありたい。  
(ひとは作業所 小林 かおり)

と

は

# 「男の身だしなみ」

アグリサポートひとはで、今ひそかにデオドラントシート(香りのあるウェットティッシュのような感じで、汗等を拭き取れるシート)がブームに! 私が使用していると「それ何? 俺も買おうかな」という声がちらほらと。数日後... 活動後にシートを使用するきららが数名いるではありませんか! 「則川さんと同じの買ったよ」「俺はこの香り〜♪」「実は、僕も買いました」という声が聞かれ、気づけば私を含め約3分の1の方が持っていました。それぞれ香りも違い、これまでに見られなかった個性豊かな光景が広がっているアグリサポートです。

(就労センターあっぷ 則川 靖久)

の

日

# 「手のマスク」

コロナウイルスが流行り始めてからホームでは「マスクをしましょう!」と呼びかけています。ある日、ホームで生活されている外輪さんが口を手で覆って手のにおいをかいていました。外輪さんにはにおいに敏感で、いろんな場所のにおいをかぎたくてマスク着用が難しいのかと思っていましたが、水附美江さんが「手のマスクしとるんじやね」と言っていたのを聞いてハッとしました。マスク着用の方法は個々で違い、広い視野を持って支援していきたくて改めて思いました。いつも気付かせてくれてありがとう!  
(共同ホーム ひとは 高田 和美)

々

# 9月号反省会 編集委員+田中賢さん

竹内: 今後毎年一度このような紙面を発行していきたいので、次につなげられるように今日は話をしたいです。さ、そく、反響として、カラーなのが良い、折りやすい紙だった、文字が小さい、表面の座談会(本音トーク)は読みごたえがあったなどの声がありました。

寺尾: 座談会の中で、河野さんが車椅子を利用している人でもひとは館で働ける環境があればという話は、彼の視線ならでして、なるほど! と思った。

竹内: 田中さん、紙面のデザインをされて、いかがでしたでしょうか。  
田中: デザインをするうえで心がけたのは、ひとはの日常を伝えるという点を重視しました。写真の選択肢が

もっとたくさんあると良かったなと。  
寺尾: 編集委員も意識しないといけない。日常の良い瞬間が載ると良い。  
竹内: 文尚さんの写真を見て、ひとはに電話をくださった方がいました。  
白井: きららが学校に通っていた頃に担任をしていてという先生と話をすることが多い。その方が今のきららの姿を見られて懐かしさを感じられた。

竹内: 今後、ひとはに足を運んだことのない人も「ひとはは面白いところだな」と思ってもらえるような紙面を作りたいと思いますので、よろしくお願いします。

# 編集後記

昨年の4月号から「語り継ぎたいこと」として、おーい聴こえますか、こころの中占から一つを選んで載せていた。これは寺尾さんが障宮のある人と共に活動する中で生々木匠の足跡の語り録でもあり。「おーい聴こえますか」の冊子で(エイニール)表記とよ、こおり、このエピソード(はこの人のことか?と想像して)から、私は読んでいた。寺尾さんがガレを悪わね、いつか(は)せくなら木匠のかも... と思った時、改訂版として実名で載せていきたいと思い、カバーを作った。何度も掲載する中で、「載せるの(は)いいんじやが、新たなおーい聴こえますかを作るといい。(あはた方の実録の語り録を作るといい。)」と常々話されていた。ひとはの至る所で寺尾さんの足跡を感じると共に、話された原稿もあつた。  
(竹内 和美)

あはた方の実録の語り録を作るといい。